

## 第1回高齢者学シンポジウム

「古稀式－さらなる豊かな人生の門出を祝う会」開催報告

副所長 石上 和敬



去る2022年9月11日(日)13時から武蔵野キャンパスにおいて、しあわせ研究所主催 高齢者学シンポジウム「古稀式－さらなる豊かな人生の門出を祝う会」が開催されました。同シンポは超高齢社会を迎える日本において、高齢者のしあわせを考えていくことは重要かつ喫緊の課題であるとの問題意識に基づき、本研究所特別顧問で高齢者法が専門の樋口範雄法学部教授、同じく特別顧問で法学研究科長の池田眞朗教授を中心に企画されたものです。当日は地元の高齢者の方々200名以上が参加され、古稀をお祝いすると同時に、高齢者学の諸分野において学びの喜びを実感していただくなど、学舎に相応しい意義深い時間を過ごしていただきました。また、高齢者学はとりわけ産官学の連携が重要な学問であることに鑑み、同シンポでは地元自治体4市(西東京市、武蔵野市、三鷹市、小金井市)から後援をいただき、また長年高齢者問題へ取り組んでいる株式会社三井住友信託銀行と(一社)全国地域生活支援機構からは共催という形で協力をいただきました。以下に当

日の流れを簡潔にまとめます。

第一部では、催者を代表してしあわせ研究所長の西本照真学長の挨拶、続けて西東京市、武蔵野市、三鷹市の3市長から来賓としてご挨拶をいただきました。

第二部の基調講演は、御年90歳を迎える樋口恵子先生から「人生100年、超高齢社会における学びの再発見－後期高齢者の社会参加」と題してお話いただきました。45分間のユーモアを交えた熱演に来聴者一同圧倒されるとともに、大いに元気づけられました。

第三部では10の分科会に分かれてのワークショップが開催されました。多岐にわたる分科会の内容からは高齢者学がいかにより多くの分野にかかわる学問であるかを再認識させられました。またいずれの分科会も各分野の著名な講師が担当し、質疑も含めて、参加者一同大いに満足した様子でした。

ご関係各位に深甚なる謝意を表しつつ、ご報告といたします。

